

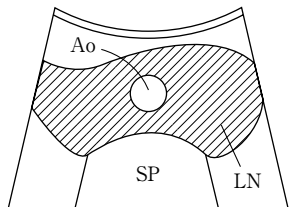
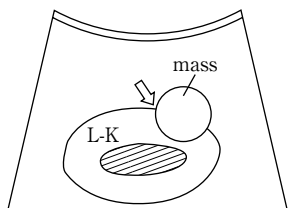
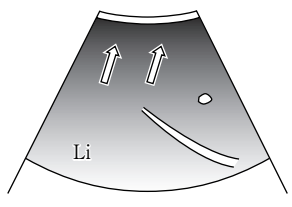
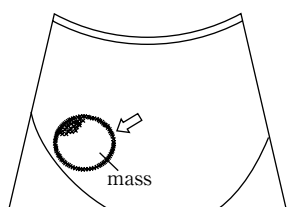
実用超音波用語集 ーサイン集ー 掲載のお知らせ

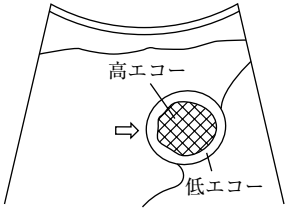
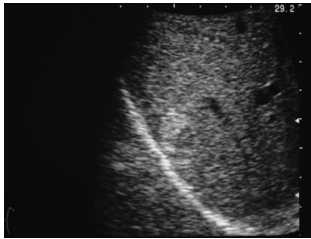
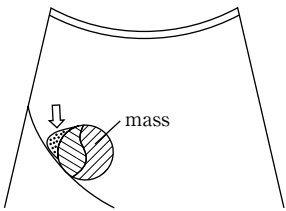
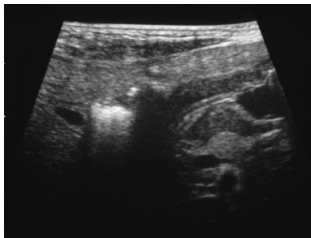
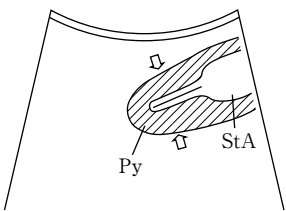
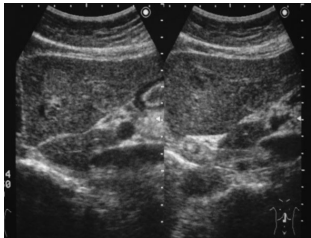
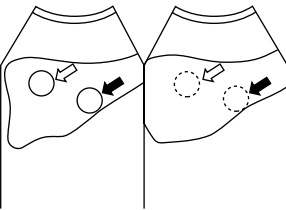
日本超音波検査学会では標準化委員会を発足させ、超音波診断精度の向上を目的として審議を重ねてきました。このなかで医用超音波用語集（案）ーサイン集（シェーマ編）ーについては、Vol.26. No.4, 2001およびホームページへ掲載し、会員の皆様よりご好評を得ております。

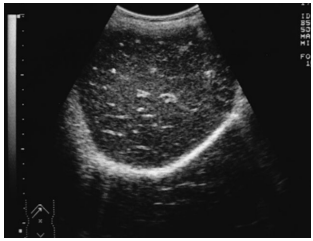
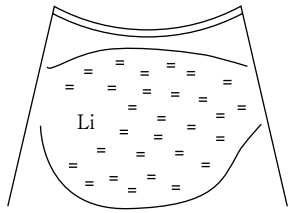
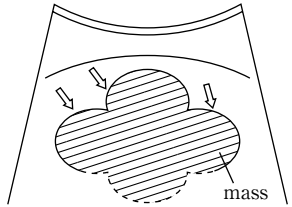
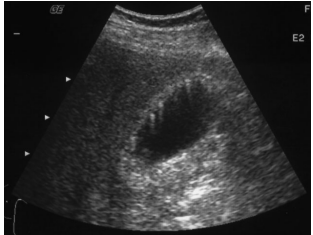
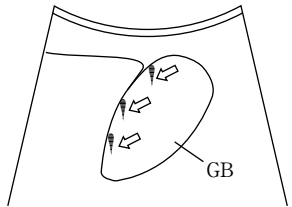
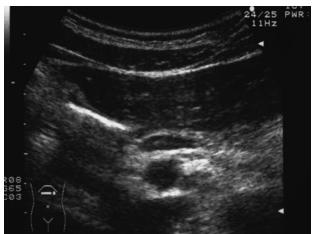
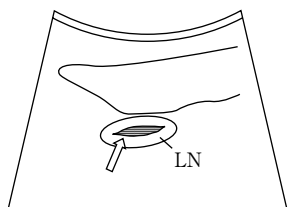
今回は消化器、循環器、体表臓器（乳房、甲状腺）、泌尿器（副腎を含む）、産婦人科の5領域について、超音波検査に関する用語集のシェーマ編に写真を挿入したものを実用超音波用語集のサイン集として掲載し、本学会の標準化案として提示いたします。この用語集は、今までの論文等で用いられた用語を可能な範囲で抽出し、会員に広く理解していただくために作成したものです。実際的な活用は、基礎や原理的なものではなく、報告書に記載する場合や日常カンファレンスで使用するサインのうち実用的と判断したものをサイン集として掲載しました。また、日本超音波医学会の用語・診断基準委員会による医用超音波用語集に掲載されている用語については下線を付けて汎用性を高めました。

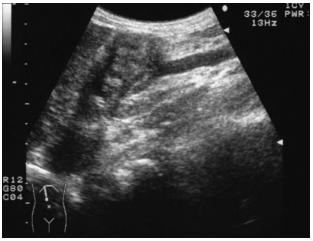
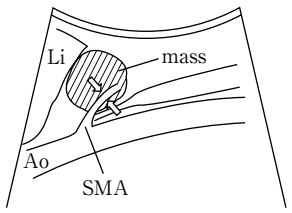
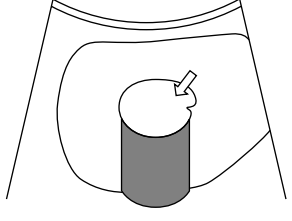
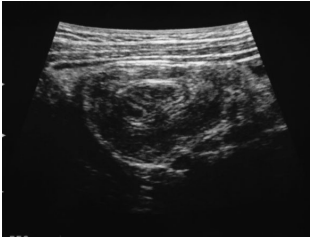
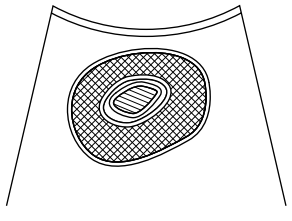
今後、会員の皆様のご意見を伺った後、再度標準化委員会では審議し本学会の標準化規約にしたいと考えていますので、忌憚のないご意見をいただければ幸いです。

なお、この標準化案は当会のホームページにも掲載する予定ですのでご利用いただければ幸いです。

番号	名 称	概 念	対象疾患 対象部位	画 像	シエーマ
1	aortic sonosilhouette sign	大動脈周囲のリンパ節が累々と腫大し、かつそのエコーレベルが低いと、大動脈が内部にうずもれ認識できなくなるサイン。しかし、シエーマのように加齢や動脈硬化により大動脈は石灰化をきたし逆に認識しやすくなることもある。	悪性リンパ腫 腹部大動脈		
2	beak sign	幽門部が著しく狭窄している場合に、入り口において鳥のくちばし状（beak）に狭窄部に向かって突出する像。腎由来の腫瘍の場合、腫瘍と腎皮質との境界部が、くちばし状（beak）に描出される。膀胱頸部硬化症における、前立腺部尿道全体の開大不全像や索状物による絞扼イレウスの診断にも用いられる。もともとはX線検査所見である。（shoulder signを参照）	肥厚性幽門狭窄 腎嚢胞 腎細胞癌		
3	bright liver （高輝度肝）	肝臓は高輝度のエコースポットで満たされ、全体的にエコーレベルが上昇する現象。浅部で特徴的である。無数の脂肪滴によるエコーの反射や散乱に基づく。	脂肪肝		
4	bright loop pattern	2 cm以下の高エコー型肝細胞癌で見られるもので、内部が低エコーに抜け、腫瘍辺縁に高エコー帯を有するもの。幅は一定でないことが多い。早期肝細胞癌の発見に有用。脂肪化を伴った高分化型肝細胞癌の内部に脂肪化を伴わない分化度の異なる、より低分化な肝癌が発育するために出現する。輪状の脂肪化による、淡明細胞化や線維化などに起因する。血管腫で見られるmarginal strong echoと鑑別を要す。（marginal strong echoを参照）	肝細胞癌		

番号	名 称	概 念	対象疾患 対象部位	画 像	シエーマ
5	bull's eye sign bull's eye pattern (標的像)	腫瘍中心部の変性した領域が高エコーとなり、辺縁に均等で幅の広い低エコー帯を有する円形腫瘍像。 イメージ像としては、ドーナツ状であり、また、雄牛の眼にも似ていることからbull's eyeと呼ばれている。 真菌性の脾臓癌でも同様に、中心部が高エコーな低エコー腫瘍がみられる。 肝細胞癌でみられる辺縁低エコー帯と比較して幅が広い。 (target patternとも呼ばれる)	転移性肝腫瘍 脾臓癌		
6	cap sign	最初に発生した癌結節の辺縁に新たに癌が発生したものの、capを被った頭のように、capの部分は低エコーに、頭の部分のエコーレベルは高く（通常は高分化型肝細胞癌）描出され、再発を示唆する所見となる。 nodule in noduleと同じ意味であるが、早期の肝細胞癌で有用な所見である。	肝細胞癌		
7	cervix sign	縦断像で肥厚した幽門筋が重なりあってできる二つの線状低エコー像。肥厚した幽門筋が前庭部に突出し、子宮頸部に類似するためcervix signと呼ばれる。 横断像では肥厚した幽門筋が標的状にみられtarget signとも呼ばれる。幽門筋の厚さが3 mmまでは正常であり、4 mm以上のものは肥厚性幽門狭窄症と判断される。 (double-track sign, target signを参照)	肥厚性幽門狭窄症		
8	chameleon sign	肝血管腫において、体位変換をすると腫瘤性状が変化する現象。 (disappearing sign, wax and wane signを参照)	肝血管腫		

番号	名 称	概 念	対象疾患 対象部位	画 像	シェーマ
9	CL pattern	肝内エコー輝度の全体的な減弱がみられるために、相対的に門脈壁の輝度が上昇し広範囲に描出される。夜空に星をちりばめたように描出されることより starry sky と呼ばれる。 (FF patternを参照) (CL : centrilobular pattern)	急性肝炎 慢性肝炎の急性増悪		
10	cluster sign	腫瘍が増大していく過程において多数の腫瘍がその名のとおり、ぶどうの房状に融合し一塊となったもの。腫瘍像としては描出されず、肝実質の粗雑像と誤診されることがある。	転移性肝腫瘍		
11	comet-like echo (コメット様 エコー) comet sign	ストロングエコーの後方に彗星のような白い縞がみられ、深部にいくほど小さく、おたまじゃくしの尾のように描出される現象。 アーチファクトの一種で多重反射による。 対象物の超音波反射強度が音響陰影を伴うほど強くなく、対象物のみで超音波の往復が起こるために生じる。 (comet tail artifact, tadpole tail artifactと同義語)	胆嚢壁内結石 胆石後方の高エコー像 胆嚢筋腫症のRAS 胆道気腫 コレステロールポリープ 血管壁の石灰化 微小嚢胞 手術材料(腹腔鏡手術でのチップ、ステント)		
12	coursing line	リンパ節内部にリンパ門 (hilum) が線状高エコー像として描出される。reactive (反応性) なリンパ節の良性腫大像として認められる。 悪性例ではみられることが少なく鑑別点となる。	良性リンパ節腫脹		

番号	名 称	概 念	対象疾患 対象部位	画 像	シエマ
13	cuff sign	膵癌における上腸間膜動脈（SMA）の起始部への浸潤を示す。周囲の結合組織と比べ低エコー領域がSMAを包むように描出される場合は浸潤が考えられる。その名のとおりSMAを取り囲む“そでカバー”状の厚い円筒状の領域を指す。 主腫瘍よりカフ状の部分のエコーレベルは高めに描出され、陽性の場合には動脈周囲浸潤があるため膵癌切除の適応はないものと判断される。	膵癌		
14	cystic pattern (<u>嚢胞性パターン</u>)	腫瘍の内部性状が嚢胞性のもの。	嚢胞性腫瘍 (全領域共通)		
15	danish pastry sign	(target sign, multiple concentric ring sign を参照)	腸重積		
16	deep attenuation	脂肪沈着が高度の場合に、肝臓の深部では音波の減衰のためにエコーレベルが低下する現象。	脂肪肝	